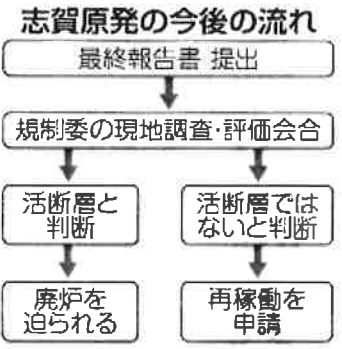


福浦断層「やっと認められた」

志賀最終報告 規制委、北電を批判

志賀原発（石川県志賀町）直下の「S-1断層」が活断層ではないとする最終報告を十九日に提出した北陸電力。最終段階になって福浦断層を「活動の可能性が否定できない」と変更したことに、原子力規制委員会は取材に「ようやく認められたか」（担当者）と北電の対応を批判した。規制委の現地調査は来年春との見方もあり、断層問題は長期化する恐れもある。（坂本正範）



北電は六月の中間報告「社長は十九日の会見で告の際、規制委から周辺断層のデータを求められていたがS-1断層を中心にとまとめられた。規制委はこれに厳しく臨み、追加調査を求めた経緯がある。規制委が周辺断層のデータを求めたのは「福浦断層は活断層でないかとのうわさがあった」ためという。

も考えられる。北電や自治体は「迅速な対応」と早期決着を求めているが、調査団を派遣する規制委内部には「冬の日本の海岸線は危ない。調査団に行ってもうるのはどう

「直近の断層過小評価」

新潟大名誉教授が疑問視

志賀原発直下の「S-1断層」について、北陸電力は最終報告で「活断層ではない」と結論づけた。志賀原発周辺で、独自の断層調査を求めたりすること

志賀原発直下の「S-1断層」について、北陸電力は最終報告で「活断層ではない」と結論づけた。志賀原発周辺で、独自の断層調査を求めたりすること

立石氏は「福浦断層の活動性を認めたこと」の立石雅昭名誉教授（地質学）は「安全が確認されたとは到底いえない」と批判する。立石氏は「福浦断層の活動性を認めたこと」の立石雅昭名誉教授（地質学）は「安全が確認されたとは到底いえない」と批判する。

か」との声が出ている。規制委の担当者は同日、「これから調査団のメンバーを決める。年内の調査はない」と話した。

福浦断層について立石氏らの調査では、少なくとも四十年前以降に動いた可能性が指摘されている。

「S-1断層」などと福浦断層が連動して動いているという北電側の結論も「つながってないから大丈夫という論理は単純すぎる。規模が大きな地震が起きたときに、敷地内の断層がどう動くかを解析しないことには議論にもならない」（中山洋子）

S-1断層の再調査をめぐる経緯

2012年 7月17日	原子力安全・保安院（当時の）専門家会議が活断層の可能性を指摘
18日	保安院が北電に再調査を指示
25日	北電が再調査計画を保安院に提出
8月10日	再調査が始まる
10月25日	北電が最終報告の時期が当初予定の13年1月末から早くても3月末になると発表
12月7日	北電が再調査の中間報告を原子力規制委員会に提出。「現時点では活断層を示すデータは得られなかった」とする内容
13年 3月22日	北電が調査の遅れにより最終報告が5月以降にずれ込むと発表
6月6日	北電が「耐震設計上考慮すべき活断層ではない」とする報告書を原子力規制委員会に提出
7日	原子力規制庁次長が記者会見で6日の報告書を「中間報告と受け止めている」と発言
21日	北電副社長が石川県原子力環境安全管理者協議会で最終報告書を9月をめどに提出する意向を示す
25日	北電が最終報告書を9月末に提出すると原子力規制委員会に報告
9月26日	最終報告書の提出延期を発表
12月19日	北電が最終報告書を提出